



核戦争を阻止し核廃絶を

困難乗り越え3・1ビキニデー

真宗大谷派安養寺 林正道

新型コロナウイルス被害の拡大により、3・1ビキニデー集会が中止されるなど様々な制約の中、3月1日、故久保山愛吉氏墓参行進と墓前祭が行われました。

前日の2月29日には、「宗教者平和運動交流集会」が開かれました。しかし、4月に開かれる予定になっていた『原水爆禁止世界大会 in ニューヨーク』は、新型コロナウイルスの感染拡大により開催中止が決定されました。



3・1墓参行進と墓前祭

アメリカが1954年3月1日、太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で水爆実験を行い、第5福竜丸など1000隻もの日本のマグロはえ縄漁船が「死の灰」で被爆してから今年で66年。被爆で犠牲になった故久保山愛吉さん（第5福竜丸無線長）の墓前祭が今年も、静岡県焼津市の弘徳院で行われました。



リ旗や太鼓の音を響かせながら行進しました。午前10時30分からは、日本宗平協が主催して、「追悼法要」が営われました。

たった一つの「新型のウィルス」、
万全な都市社会も
市場経済も お手上げだ
自然災害や戦争をも上回る勢い
グローバル化がもつ
現代社会の最大の試練かも

日本国憲法 第9条
日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

墓前祭に先立ち、焼津駅から弘徳院まで墓参行進。例年は約1500人が参加していましたが、ビキニデー集会の中止により、個人参加者を中心に宗教者や日本原水協の高草木博代表理事、地元の人など約30人が、ノボ

開会あいさつに立った日本宗平協の荒川庸生理事長代行（真宗大谷派長永寺住職）は、「今年はニューヨークで、NPT（核不拡散条約）再検討

会議や原水禁世界大会が開催され、宗教者も参加する。こうした大事な年であり、墓前祭をスタートに原水禁運動を大いに盛り上げていこう」と呼びかけました。

弘徳院山主を導師に焼津市仏教会の読経、参加者が次々に焼香しました。弘徳院山主の松永芳信師は法話で、「原水爆の犠牲者は、私を最後にしてほしい、と訴えた久保山愛吉さんの遺志を守っていきましょう」と訴えました。

第5福竜丸平和協会の山本義彦代表理事（静岡大学名誉教授）が、「水爆実験で被災した人、実験場とされた地域の全ての人に想いをいたし、今後一切の核廃絶に挺身することこそが、久保山さんへの私たちの未来への

贈り物になると確信している。世界の核開発、保有、貯蔵、利用の一切を根絶することを誓います」と述べました。中野弘道焼津市長、松井一美広島市長、田上富久長崎市長からのメッセージが紹介されました。



第2部の「誓いの集い」は、規模を縮小して各代表が核廃絶に向けての決意を述べた後、各宗教の祈りがリレーで行われました。

宗教者平和運動 交流集会が

2月29日午後、宗平協は静岡県焼津市内で「宗教者平和運動交流集会」を開きました。

冒頭、遠藤教温代表理事（日蓮宗本立寺住職）が経過を含めた開会あいさつのもと、第5福竜丸平和協会の山本義彦代表理事（静岡大学名誉教授）から、「核兵器禁止条約の状況と展望 ビキニデーの意義について」の基調報告がありました。集会では、今年4月に開催される予定のNPT再検討会議、原水禁世界大会inニューヨークに参加する宗教者代表団の壮行会が行われ、一員としての決意表明がありました。京都宗平協の出口玲子さん（日本キリスト教

団信徒）が、日頃の6・9行動の様子や京都宗平協の取組みを紹介し、「核兵器にない世界を築くために力を尽くします」と決意を述べました。日本宗教者代表団は8人が参加する予定。森修覚事務局長は、「日本から参加する宗教者とともに、原水禁世界大会の成功と世界の宗教者による『諸宗教による祈りの集い』も必ず成功させたい」と決意を述べました。荒川庸生代表理事が、宗教者代表団への激励と連帯のあいさつ、「代表派遣の協力と支援金のお願い」を訴えました。

原水禁世界大会inニューヨークが中止に
「原水禁世界大会inニューヨーク」の実行委員会は3月12日、米国内の新型コロナウイルス

の感染拡大を考慮し、同大会の中止を決定しました。



日本原水協も代表団の派遣中止を決定しました。安井正和事務局長は、「『世界大会の呼びかけ』が目標に掲げた『核戦争を阻止し、核兵器の全面禁止・廃絶を達成し、世界の被爆者の援護と連帯』のための運動を、さらに発展させよう」と呼びかけました。

コスタリカに学ぶ

浄土真宗本願寺派 長光寺 大在 紀

皆さんはコスタリカという国をご存知だろうか。英国のニューエコノミクス財団が4年に一度発表する「地球幸福度指数 (Happy Planet Index、HPI)」2016

年版において、3回連続で1位となった国である。2位は同じ中米のメキシコで、アジアの1位はベトナム(5位)、日本は58位である。

中米コスタリカは、北のニカラグア、南のパナマと国境を接し、人口500万人にも満たない国である。

「兵士よりも

多くの教師を」

コスタリカでは今も英雄として称えられている

ホセ・フィゲレス・フェレール (1906-1990) が、熾烈な内戦に勝利し、1948年に軍を解体して以来、70年以上にわたって非武装を貫いている。彼は「兵士よりも多くの教師を」というスローガンのもと、軍事に投入していた予算を、教育や医療、環境保全に分配することを決めた。

フィゲレスが軍の解体を決めた最大の理由は何か。1948年の内戦で、勝利はしたものの、多くの犠牲を出してしまったことへの反省があったとみられている。彼は、晩年のインタビューで、「戦争は病気で、平和が普通。健康になるために、原因を取り去るべき」と答えている。

国家予算を、軍事ではなく、教育や医療、環境保全など健康的な社会づくりに投資したほうがメリットが大きいと判断したのである。

コスタリカの大学生に行った調査では、9割以上が軍を撤廃したことを「よかった」と評価し、他の調査でも、ほとんどの人が軍隊を復活させようとしないかという試みにも強く反対すると回答しているようだ。コスタリカの人々は軍隊のない国のあり方を好意的に受け止め、そこに暮らしていることに誇りを持っている。それが幸福感につながっているのかもしれない。

コスタリカの憲法には、「GDPの8%を教育費に充てる」と明記され、これによって、大学までの無償教育が実現し、子どもたちの識字率や進学率も向上している。また、社会保障制度を拡大し、国民皆保険を整備。中産階級を増やすことを目指した一連の改革が、機会と平等を人々にもたらしている。日本のGDPの8%は約42兆円。これをすべて教育費に充てる計算になる。現在の日本の国家予算のあり方とは大きな違いがあることは言うまでもない。



「世界の政治的見解が我々の軍だ」

冷戦の時代に中米は米ソ対立の戦場となり、アメリカから何度も参戦を迫られたが、1983年には永世中立を宣言した。その後も「中立路線が続けば資金援助を打ち切る」とのアメリカからの脅しに屈しなかった。

また、87年にはコスタリカの大統領がリーダーシップをとり、他の中米諸国の大統領と会談を重ね、中米和平合意も実現させた。その功績により、オスカル・アリアス・サンチェス大統領は、1987年にノーベル平和賞を受賞している。

強大な力を持つアメリカに対して、なぜコスタリカは確固たる姿勢を貫くことができたのか。それは、コスタリカが外交

や貿易を通じて世界中のさまざまに国々と強い友好・信頼関係を築き、敵を作らないという新しい国家安全モデルを築いたからである。中立宣言のときも中米和平合意のときも、コスタリカの大統領はヨーロッパの各国首脳を訪ねて支援を要請するなど、積極的な外交努力をしている。

『コスタリカの奇跡（積極的平和国家のつくり方）』という映画の監督を務めたマシュー・エディー氏は、憲法9条がどれほど世界的に注目されているか、称賛されているかを日本の皆さんに伝えたいと、そのインタビューの中で語っている。彼は、平和的な憲法を持つ日本こそが、コスタリカのような平和を求める国々と協力し合っ国際的な平和システムを構築していくべきで、それによって世界中にはびこる軍事産業の闇に立ち向かうことができることも述べている。

改憲への動きが目立つ今だからこそ、日本でも平和に対するコスタリカのあり方に学ぶべきことが多いのではないだろうか。

「チマチヨゴリの女」

大分メノナイト・キリスト教会 牧師 佐々木淳二

1月7日、英国、エセツクス大学、ヒューマン・ライツ・フェローの藤田早苗さんがホルトホールで講演をされると聞いて、友人と一緒に参加してきました。

藤田先生は、まだ若い先生ですが、人権に関する学位をお持ちの方です。先生のお話はわかりやすく、写真や映像を駆使されて、あつという間の2時間でした。

講演の最後に流された映像に胸を打たれました。

日本のどこかの地域で開催された反韓・嫌韓のヘイト・デモの様子が映し出されています。軍服のような服を来た人もいます。彼らが高く掲げたプラカードは、韓国人を

罵倒する言葉が書かれており、見るに耐えられませんが、それは憎悪と怒りともに満ちた、ひどく醜いものでした。

広場の中心では幾人かが大声でスピーチをしています。暗澹たる気持ちがあります。

ところで、ヘイト・デモが行われている場所から一本隔てた路上にチマチヨゴリを着た女性が、一人で立っていました。

彼女が立っている横には小さな立て看板が置かれており、そこには次のような言葉が書かれています。

「私は韓国人です。今日、隣の通りではヘイト・

デモが行われています。けれども、私は日本人を信じています。もしあなたが、私を信じてくれるなら、ハグを……と。



路上を通り行く人々は、チマチヨゴリを着た彼女を横目で見て通り過ぎていきます。中には、「何だ、この女は」、という目で通り過ぎて行く人もいます。彼女は、たった一人で、そんな人々の目によく耐えていると、私の胸が痛くなりました。

すべての人が横目で見て通り過ぎて行くかと思えた、その時に、若いママと小さな可愛いお嬢さ

んが、彼女に近づき優しくハグをしました。続いて二人の若い娘さんたちが彼女に近づきハグをして、幾つかの言葉をかけます。その言葉に喜ぶ彼女の笑顔。

それが呼び水となつたのでしよう、通り行く人々は次々と彼女にハグをして、彼女に言葉を交わします。彼らは何を言っているのでしょうか。

たぶん「もちろん、私たちは、あなたを信じています」と。

映像を一緒に見ていた友人をチラッと見てみると、彼の目に涙が浮かんでいるではありませんか。その涙を見た瞬間、私も泣きそうになりました。

「私が」から始まる世界

日蓮宗妙楽寺 掛橋泰定

コロナウイルス対策で安倍首相は全国一斉休校を要請しました。これは「2日、参院予算委員会で、小中学校などの臨時休校要請について、『直接、専門家の意見をうかがったものではない』と述べ、明確な科学的根拠に基づく判断ではないと認めた形だ。」と報道されました。

要請をした後の会見では「私が決断した以上、私の責任において、様々な課題に万全の対応を採る決意であります。」と。コロナ対策は新型肺炎であるだけに、今後どのように進展収束していくのか予断を許さない部分があります。今やこの要請によってすでに学校

現場や企業活動、家庭や社会が受けたインパクトと影響の大きさは想像を絶するものがあります。複雑系の言葉を持ち出すまでもなく、最高責任者の言葉の重さが計り知れません。

このように安倍氏が「私が」と言い出せば、すべての歯車が回り出します。

別掲の政権の足跡に記してみると、一つ一つが大きな問題をほらんでいくことは確かであり、そこに見えるのは「私が」という彼のねじ曲がった強烈な意志です。

安倍首相は数々の問題で追求されるたびに答え

をはぐらかし、「丁寧に説明して」という名文句を繰り返すだけであり、官房長官は「説明はされたので、問題はない」とかわしてきました。

検事長定年延長問題ひとつとつてみても、内閣

法制局長官・人事院局長、果ては法務大臣まで苦しい答弁を余儀なくされました。問題は、トップが発言した言葉に「どうしたら裏付けを与えられるか。それも後付けで。だから「決裁は文書でなく口頭でした」「言い間違いました」「詳しい日には覚えていません」と言うしかありません。後付けでの法の解釈変更は違法であるという認識がありつつ、それ

7年余りの安倍政権の足跡

- 検事長定年延長問題
- 国会審議を経ない中東への情報収集という名の自衛艦派遣
- 桜を見る会の諸問題
- 地上イージスアショア配備計画策定
- 勤労統計不正
- 辺野古基地建設のための埋め立て強行
- 議事録不作成と改ざん
- 国家戦略特区を私的に利用したカケ疑惑・国有地格安払い下げのモリ疑惑
- 福一原発のアンダーコントロール発言
- ポツダム宣言詳らかでない発言
- 誤読や思い違いを後から肯定する数々の閣議決定
- 9条の解釈改憲となる集団的自衛権行使容認の閣議決定
- (いわゆる共謀罪の創設を含む) 組織的犯罪処罰法の改正
- 特定秘密保護法制定
- 教育基本法改定など

を認めたら自己のキャリアも政権もお終いであると分かつているので、部下は取り繕うのに必死です。

「戦後レジームからの脱却」を掲げて政権復帰し、7年余りで成し遂げたことは、「私が」企んだ国民の分断と「私の」政治への不信からはじまった国家の破壊行為です。

現に、民主選挙で選ばれた日本会議系の自民党議員たちは、『国民主権・平和主義・基本的人権を制限・撤廃しなければ真の日本ではない』と言いつのり、改憲によってこの国と国民を支配下に置こうと目論んでいます。選挙によって託された権力は仮のものであると

いう、職と自分に対する厳しさが安倍氏には見受けられません。

諸問題に国家の組織をあげて全力で取組み、情報と対処、行動の記録を残し、後の検証に判断をゆだねる潔さ。時に人は判断を間違うことがあるという自覚と謙虚さ。私的に国家を利用せず、身内に利権を分配しないという潔さ。「国家と国民のために」生きるという、政治を志した人に必要な、すべてを貫く高貴なプライド。

これらが政治家に必要な要件であるにも拘わらず、現実的には個人にとめることが容易でないからこそ、「理性的に策定した」「独裁を許さない」厳格なルールが必要

であり、適用することが普段に求められるのである。

現状は「アベ氏の前にはアベ氏ない」程の惨状ですが、安倍氏によって作られた政治手法がこれ以上続かないように、「アベ氏の後にアベ氏なし」となるよう、私たちは今以上に頑張つてまいりましょう。

2020年度 総会と講演会のご案内

本年度の総会に併せて記念講演を下記の通り企画いたしましたので、会員以外の皆さまにもご参加いただければ幸甚に存じます。

＝ 記 ＝

日時：2020年5月14日（木）14:00
会場：長光寺（大分市大在 ☎097-592-2013）
講師：神戸輝夫先生
講題：「中国、韓国、日本の仏教受容と展開」



講師プロフィール
1939年京都市生れ
京都大学卒 大分大学名誉教授
「戦争法の廃止を求める学者の会・大分」代表
「平和を求めるオールおいた」共同代表
「大分大学のガバナンスを考える市民の会」代表

宗教者9条の会・大分 事務局

〒877-0012
日田市淡窓1丁目4-25
妙栄寺
TEL 0973-22-2245
年会費 3,000円
郵便振替口座
01720-1-111731

事務局変更

事務局が、見成寺（日野詢城）から妙栄寺（掛橋泰定）に変更になりました

世話人（◎代表者）

酒迎 天信

日本山妙法寺

日野 詢城

大谷派見成寺

林 正道◎

大谷派安養寺

古谷 聡

大谷派蓮照寺

佐々木淳二

大分メノナイトキリスト教会

掛橋 泰定

日蓮宗妙栄寺

大在 紀

本願寺派長光寺

野口 春夫

日本基督教団津久見教会

編集後記

新型コロナウイルスが、世界で日本でも、世界でも猛威を振るっている。大分メノナイトキリスト教会の佐々木淳二牧師は、「3月に入ってから日曜礼拝に来る信者が激減している」と。寺院でも、春のお彼岸法要を中止したり延期したり。自坊も、3月28日、29日が彼岸会法要。今のところ、やることにしているが…。1日も早い収束を願つてやまない。（正）